

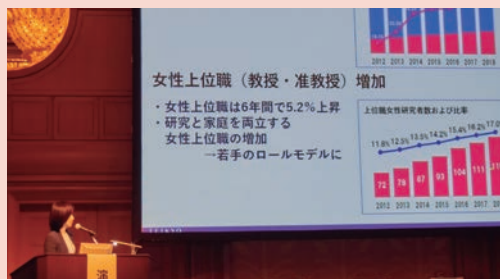
帝京大学女性医師・研究者支援センターNEWS

Teikyo University Support Center for Women Physicians and Researchers



第84回日本泌尿器科学会男女共同参画シンポジウムで沖永寛子センター長が講演

日本泌尿器科学会東部総会男女共同参画シンポジウムにおいて女性医師・研究者支援センター長・沖永寛子副学長が講演を行いました。日本の女性医師の半数は40歳以下であり上位職になるについて極端に少なくなるという現状の中、本学では2013年に女性医師・研究者支援センターを設立し学内の意識改革を進めるとともに、仕事と家庭を両立させながら質の高い研究活動ができるよう支援体制を整えた結果、女性教員比率・上位職ともに経年的に上昇していることを紹介しました。また、病院における個別の取組も進んでおりシニアレジデントにおける女性の増加等に成果が現れていることも報告されました。最後にこれからの働き方には第一に「ワークライフ・バランスと労働環境」第二に「ともに働くイクボスの存在」、第三に「女性の強い意志」と「少しの出費」「助けを求める勇気」が必要であり、ダイバーシティ環境の実現に向け「女性よ、大志を抱け！」という女性医師であり大学経営者でもある沖永副学長のエールが心に残る貴重な場となりました。



介護準備セミナー「介護で離職をしないために」を開催

7月30日に介護準備セミナー「介護で離職をしないために」を開催しました。冒頭にDVD「仕事と介護の両立のために」を上映し、その後3名の講師がそれぞれ介護に直面したときの心構えや制度について説明しました。法学部の村上文教授は介護保険制度の概要や日本の介護状況に関するデータを基に事前に知識を持つことの重要性を説き、続いて宮本博司課長補佐はメディカルソーシャルワーカー(MSW)として実際に附属病院でご家族への支援に携わる立場から制度および介護施設についてアドバイスを交えて説明しました。最後に本部人事課望月誠課長補佐が介護休暇や介護休業など介護と仕事を両立するための本学制度について紹介し、70名を超える参加者は真剣に聞き入っていました。今後も介護離職防止に向けた取組を継続的に実施し働きやすい職場環境の整備を進めていきます。



「今さら聞けない 科研費カフェ」を開催

研究力向上のための取組「今さら聞けない 科研費カフェ」を実施しました。タイトルが示すとおり、基本的な申請方法や申請書の書き方・タイミングなどさまざまな素朴な疑問に対し、審査経験もある男女共同参画推進委員が自身の経験からサジェスションを行うとともに、昨年実施した「科研費セミナー」講師の書籍・紹介を行いました。気軽に参加できるようにランチを取りながらのカフェスタイルでの開催でしたが、若手だけでなく、研究と事務を連携する業務や、研究を支援する業務に関わる中堅研究者も参加するなど、研究に再挑戦するさまざまな方々への支援の場となりました。

今さら聞けない
科研費カフェ

経験豊富な男女共同参画推進委員が科研費申請に関する疑問をコッパについてお話しします。
男女問わず、ランチを持って気軽にお話しください。

2019.8.29(木) 12時~14時
(事前申込不要・出入り自由)

女性医師・研究者支援センター
(院内※会議室内)

お問い合わせ：帝京大学 女性医師・研究者支援センター

特集

平成 30 年度学内ニーズ調査アンケート結果のご報告 (介護編)

平成 30 年 12 月に実施した育児・介護と仕事の両立に関する学内アンケート調査の結果について一部報告いたします。今回の調査には、
平 本学教職員・医療従事職の皆さまから 598 件の回答をいただきました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

1. 介護状況について

介護が必要な親族の有無について尋ねた質問では、介護が必要な親族がいると回答した人は同居・別居あわせて 27%と、全回答者の 4 人に 1 人以上は介護が必要な親族がいる状況であった。また、現在身近に介護が必要な親族はいないと回答した人に「将来的に介護にかかわる可能性」について尋ねたところ、48.4%が「介護にかかわる可能性がある」、25.9%が「主介護者になる可能性がある」と回答するなど、7 割以上が将来的には介護に関わる可能性があり、本学教職員にとっても介護が身近な問題であることが明らかになった。

2. 介護と仕事の両立について

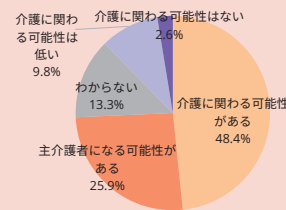
上記において介護が必要な家族・親族がいると回答した人を対象に、十分に仕事ができる状況を 100%として、介護期の仕事の進み具合について尋ねた。この質問に対して「81~100%」と回答した人が最も多く 48%であったが、次いで多いのが「20%未満」という回答であり、回答者全体の 14%にのぼっていることが留意される。次いで、介護と仕事を両立する上で困難を感じる可能性があるかの問に対しては、自身が介護にかかわっている方々と、そうでない方々（自分以外の家族・親族が主介護者であるケースなど）によって、両立を困難に感じる度合いに違いがみられた。なお、自分が介護に関わっている人の 7 割が困難を感じる事が「よくある」「ときどきある」と回答している。

3. 介護離職の可能性について

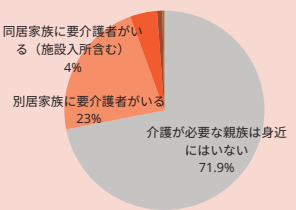
「あなたは介護のために自身が離職する可能性について考えたことがありますか」についての質問では、自身が介護を担う人の 4 割、さらに介護に関わっていない人でも 3 割強が「よく考える」「たまに考える」と回答している。介護に直面している・していないに関わらず、一定の人数が離職を選択肢として想定していることが伺える結果となった。

結果詳細は当センター WEB ページ上でも公開しています (https://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/)。

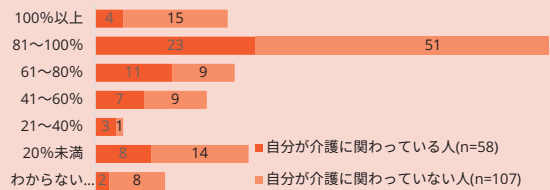
将来介護に関わる可能性はありますか。(n=428)



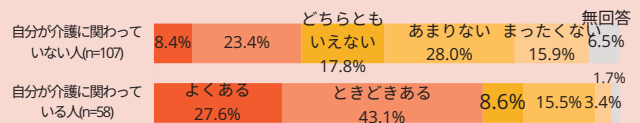
現在介護の必要な親族はいますか。(n=595)



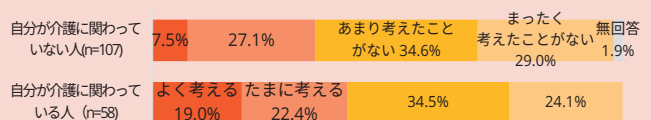
あなたの介護期の仕事の進み具合はどの程度ですか。



介護と仕事を両立する上で困難を感じることはありますか。



介護のためにご自身が離職する可能性を考えたことはありますか。



お知らせ

【学内】ベビーシッター割引券をご利用ください

今年度より利用上限枚数が対象児童 1 人につき 1 枚、年間上限申請枚数も 96 枚に増えました。詳細はセンターホームページ【各種プログラム】またはセンターまでお問合せください。

【学内】アンケートへのご協力をお願いします

2019 年度の学内ニーズ調査は 11 月下旬~12 月末に実施する予定です。詳細は学内ポータルおよびメール等でご案内します。教職員の皆様のご協力をお願いいたします。

編集後記

熱狂のうちに幕を閉じたラグビーワールドカップ。本学ラグビー部出身選手が 7 人も選出された日本代表の活躍をはじめ、ラグビーのすばらしさに心揺さぶられる、まさに「4 年に 1 度じゃない。一生に一度だ。」と思える特別な日々でした。今大会では日本の「おもてなし」力にも注目が集まりましたが、来年は 2020 年、東京にオリンピックがやってきます。今回のラグビーワールドカップのようにみんなが素敵な思い出をつくれるよう、今から自分も「おもてなし」力アップをはかりたいと思います。(仲)

編集・発行

帝京大学 女性医師・研究者支援センター

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 病院棟 6F
TEL : 03-3964-8456 FAX : 03-3964-8457
Mail : women@med.teikyo-u.ac.jp

